
俺と天使？【第2章】（4）

榛名屋 忍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と天使？【第2章】（4）

【Nコード】

N0359R

【作者名】

榛名屋 忍

【あらすじ】

「俺と天使？」の第二章。文学部一年生の男子部員・菅原悠里には大きな秘密があった。それは心は男、身体は女であること。しかし、そんな彼が好きになった相手はなんと渡会夏樹だった。外見だけ見るとボーイズラブ、だけどホントは男女の恋愛。二人は結ばれるのか？

「親が仕事の関係で映画のチケットもらったらしいんだけど、悠里、よかつたら一緒に観に行かない？」

「えっ、いいんですか？！行きますっ」

「じゃあ、今度の日曜日、10時に夕日町シネマのまえで待ち合わせね」

そんな電話を貰って、悠里は浮かれていた。と同時に、不安にもなっていた。悠里はすぐに沙也佳を呼び出した。

「それってデートじゃない！」

「えっと、だから、ただ映画館に行くだけだってば」

「映画館デートって典型的パターンじゃないの」

悠里以上に沙也佳がはしゃいでいる。悠里は沙也佳に押されて困惑していた。

「いや、見るのはアクション映画だし」

「爆発シーンが来たら女の子はキャーッて叫んで抱きつくものでしょ」

沙也佳は胸を張って応えた。

「沙也佳あ」

「冗談よ。で、デートの何が問題なの」

突然沙也佳はテンションを待ちつけて本題に入った。悠里は呆れながらも話を始めることにした。

「あ、あのさ。どんな服を着ていたらいいのかなと思って」

「スカート」

「ダメ。絶対ムリ」

悠里は即答した。沙也佳もそれを解っていてからかっているのだ。

「じゃあ、せめてピンクの服とかにしたら？」

「ピンク〜？」

「最近は男のモデルさんもピンク着てるわよ」

「ピンクねえ…」

「一緒に探しに行こうよ！ピンクの服を」

「こ、これから？」

「そうよ。早く、早く」

近くの衣料品店に出かけると、悠里を置いて沙也加が駆け出した。沙也佳は長袖のカットソーを探した。もちろんメンズコーナーだ。薄いピンク色にワンポイントの刺繍だけのシンプルなものを手にとった。

「これにパーカーでいいんじゃない？」

身体に当てて鏡を見てみると、確かに印象が変わる。悠里は驚いてしまった。

「なんか、明るい感じになった？」

「そうそう。暗い色はダメよ」

「じゃあこれにする」

すると沙也加は大きなため息をついた。

「はあ。これだから男の子ってダメよね。お洒落にもっと気を使わないと、好きになんかなってもらえないぞ」

「沙也佳はキツいなあ」

「悠里のためよ。渡会先輩が恋人になってくれるかどうか、まだわからないんだから」

「恋人っ？！」

悠里は顔を真っ赤にした。そこが衣料品店であることなど、全て頭から飛んでいってしまいそうな勢いだ。

「ま、まだそんなところまで考えられないよ」

「悠里ってそういうところが女の子よね。自分からアタックしないと気持ちは伝わらないよ」

「そうだけど」

「とにかく、コーディネートは私が何とかするから、もっと自信を

持ちなさいね」

そして、運命の日がやってきた。その日は芸術の秋に相応しい晴れの日だった。

「待った？」

先に着いたのは悠里だった。慌てて夏樹が駆け寄る。

「い、いえ。さっき来たばかりです」

悠里はドキドキしてしまつて上手く話すことが出来ない。

「そんな緊張しないで。まだ始まるまで時間あるから、マックにでも寄つてく？」

「はいっ」

「ジュース代くらい出すよ」

「え、いいんですか？」

「誘つたの俺だし」

「すみません」

「いいの、いいの」

夏樹はコーヒーを、悠里はコーラを注文した。

「先輩ってコーヒー好きなんですか？」

「うん。炭酸飲料は苦手かな」

夏樹には思い出したいくない過去がある。その過去と炭酸飲料にも深い関わりがあるのだった。しかし、悠里はそのことを未だ知らずにいる。

「そうなんですか」

「悠里はコーラで良かった？」

「はい。僕はまだコーヒーが得意じゃなくて」

「そっか。じゃあ、いただきます」

（後書き）

『アルファポリス』『コミックルーム』にて、小説ランキングに参加しています。お気に召しましたら、バナーのクリックをよろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0359r/>

俺と天使？【第2章】（4）

2011年10月7日23時18分発行